

病児保育室「あんず」のチョットアノネ

テーマ：インフルエンザ脳症

No. 92 (2025. 1. 20)

インフルエンザ脳症とは

インフルエンザウイルス感染をきっかけにして脳に障害がおこる病気です。脳症では脳の中にウイルスは存在していません。脳症の原因はまだ十分に判っていませんが、病気にかかった人の免疫反応を介して発病するのではないかと考えられています。インフルエンザは毎年100～300人くらいの脳症を発病しておりますが、今年はインフルエンザの大流行となっておりインフルエンザ脳症は多くなるのではないかと危惧されています。インフルエンザの症状に引き続き次のような症状が見られたら嚴重な注意が必要です。①意識障害：最も重要な症状です。刺激に全く反応がない重症の場合のみならず、反応が鈍いといった軽い意識障害にも注意が必要です。②けいれん：持続時間の長い場合、止まりにくい場合、再発する場合は要注意です。③異常言動・異常行動：変なことを口走ったり、変な行動が長引いた場合も注意が必要です。厚生労働省が発表した「注意したい異常言動・行動」がありますので右に提示しました。これらの3つの症状があった場合は直ちに大きな病院に搬送してもらわなければなりません。脳症の治療は非常に困難で、診療所（クリニック）では治療が不可能ですから小児科専門医のいる大きな病院に運ぶ必要があります。脳症は非常に死亡率が高く、回復しても後遺症を残すことが多い病気です。

インフルエンザ脳症を防ぐために

インフルエンザの流行前に予防接種を受ける事が大事です。予防接種で発病を約60%おさえ、インフルエンザの重症化を防ぐことができます。小児はワクチンによる免疫のでき方が弱いので不活化ワクチン（注射）が一番免疫のできやすい間隔で2回注射します。今シーズンからは弱毒生ワクチン（鼻腔内噴霧で2歳から19歳未満が受けることができます）もありますから受けるようにしてください。また、次に示す解熱剤は脳症を起こしやすいと言われており、アスピリン、サリチル酸製剤（PL顆粒など）、ジクロフェナクナトリウム（ボルタレンなど）、メフェナム酸（ポンタールなど）は使用を避けるようにしてください。一番安全な解熱剤はアセトアミノフェン（カロナールなど）といわれています。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第1位 インフルエンザ、第2位 新型コロナ、第3位 感染性胃腸炎
亘理郡内では：第1位 インフルエンザ、第2位 感染性胃腸炎、第3位 新型コロナ

大友医院病児保育室「あんず」より

お正月休み明けはインフルエンザが少し減少しましたが、まだまだインフルエンザは警報状態で、学校が始まれば再び増加すると言われております。新型コロナウイルス感染症も徐々に増加しており注意が必要です。さらに伝染性紅斑（りんご病）も増加傾向にあるようです。感染症の予防には、手洗い、マスク、咳エチケットなど基本的な感染防止に留意し、人が集まり混雑する場所にはできるだけ近づかないようにしましょう。

病児保育室「あんず」電話 0223-35-6455

「インフルエンザ脳症」とは

5歳以下 多

意識が不安定 けいれん など

重篤な場合 発症1日以内で 呼吸障害など

死亡率 約10%

後遺症 約25% (体にまひなど)

インフルエンザ脳症

注意したい異常な言動・行動

- 外に飛び出し、小川に飛び込もうとした
- 高いところから飛び降りようとした
- ついていないテレビを見て「猫が来る」「お花畑が見える」という
- そばにいるのに「ママ近くに来て」という
- 知っている単語を意味なく繰り返す
- 窓ガラスに映るものやささいなものに怯える
- 押さえきれないほどの力で暴れる
- 何でも口に入れてしまう

厚生労働省「インフルエンザ脳症ガイドライン(改訂版)」の資料を基に作成

